

『図書館フォーラム』投稿要項（太字は2003年11月改訂）

『大学図書館研究』の原稿募集要項に準じて、概要を次のように定める。

(1) 原稿執筆者の範囲

原則として、依頼記事・寄稿記事いずれの場合も、本学の教育職員並びに本学図書館所属の職員を執筆者とする。

(2) 原稿の内容

次のいずれかで、執筆者自身の未発表原稿とする。

- ア 研究論文・研究ノート
- イ 図書館に関する調査・意見
- ウ 本学所蔵資料の紹介
- エ 図書館職員のレポート
- オ その他図書館に関する記事

(3) 収載

寄稿原稿が予定の紙幅を超える件数があったときは、収載順序を図書館長が決める。

(4) 謝礼

依頼記事の執筆者（図書館職員は除く）には、若干の謝礼と掲載号5部を贈呈する。寄稿記事の執筆者（署名記事執筆者）に対しては、1編につき掲載号5部を贈呈する。

ただし、いずれの場合も抜刷は提供しない。

(5) 投稿先

関西大学図書館運営課（06-6368-1157）

電子メール（lib-ent@jm.kansai-u.ac.jp）

(6) 執筆要領

ア 本誌1ページにつき2,070字相当とする。

イ 原稿は横書き、電子メールまたはフロッピーでの提出を原則とし、手書き原稿も可とする。

ウ 電子メールまたはフロッピーで提出する場合は、ブレインテキスト（txt）形式もしくはワープロ（Word）形式を原則とする。

エ ワープロを使用の場合は、1行を23字とし45行を1ページとして設定する。

オ 本文中に図・表または写真を掲載する場合は、その相当分の字数を割愛する。

カ 原稿は次の順に記載する。

標題、執筆者名、本文、注記、引用文献、参考文献、および執筆者名の読みがな・職名

キ 原稿の表記は、次に従うものとする。

漢字は原則として常用漢字を用い、新かなづかいによる。書誌学的な理由などから、特に旧字体を使用する必要がある場合は、原稿用紙の右欄外にその旨を記す。

また、欧文原稿を除き句読点は「。」、「」、を用いる。

数字は、引用文および漢語の一部として漢数字が習慣的となっている場合を除き、原則としてアラビア数字を用いる。

引用文献、参考文献の記載方法は、次のとおりとする。

a. 雑誌論文の場合

執筆者名 “論文標題” 『雑誌名』 巻（号）、年月、ページ

b. 図書の中の一部引用の場合

著者名 “論文標題” 『書名』（図書の著編者名）出版地、出版者、出版年、ページ

c. 図書の場合

著者名 『書名』 出版地、出版者、出版年

d. 欧文の場合は、著者名を転置形として、雑誌名または書名には『 』を付さずにアンダーラインで示す（印刷では、イタリック体活字になる）。

[例] Downs, Robert B. “How to start a library school.” *ALA Bulletin* 52 (6), 1995.6, pp. 32-48.

e. インターネット上の文献

著者名 “文献標題” [参照年月日] (URL)

[例] 永沼博道 “21世紀の大学図書館に向けて - 伝統と現代化の相克” [参照2003.1.20]

(URL <http://www.kansai-u.ac.jp/Library/etc/lib-pub.htm>)

ク 図・表は、図1、図2、表1、表2、fig.1のように記す。図または表を電算等で出力したものをそのまま使用するとき、鮮明なものを用いる。写真は出来るかぎりモノクロームを用いる。図、表、写真には、その裏に執筆者名、標題、図1、図2、表1、表2のように番号を鉛筆書きのこと。

ケ 校正は、初校を執筆者に依頼し、再校以降は図書館が行うことを原則にするが、必要のある場合は、再校以降についても執筆者の協力を得るものとする。

(7) 掲載した著作物の電子化と公開許諾について

本誌に掲載した著作物の著作権は執筆者に帰属するが、次の事項について執筆者はあらかじめ了解するものとする。

ア 関西大学図書館ホームページにて公開されること

イ 国立国会図書館が行なう電子メディアに収録されること

以上

1996年3月31日制定